

- 日 時 平成25年6月20日(木) 9:48~10:06
- 場 所 中央合同庁舎4号館共用第2特別会議室
- 出席者 山本大臣、久間議員、原山議員、内山田議員、橋本議員、平野議員、大西議員  
松元事務次官、清水内閣府審議官、倉持統括官、中野審議官、森本審議官、山岸審議官

○ 議事概要

議題1. G8科学大臣及びアカデミー会長会合について(報告)

- 原山議員 本日の議題1、G8科学大臣及びアカデミー会長会合について、まず事務局から報告をして頂きます。

<内閣府 匂坂参事官から説明>

- 原山議員 ここで参加しました大西議員と私から一言ずつつけ加えたいので、大西議員、お願いします。

- 大西議員 内容については、今、報告があった通りなので、背景について、一言だけ。この会議は、毎年開催しているものではなくて、今年初めて開催したものです。それで、通常、アカデミーの会合というのは、8プラス幾つかで2005年から開催されています。2005年にイギリスでサミットがあったのでイギリスでアカデミーの会合が始まりました。去年、ワシントン、アメリカで8カ国が一巡したのですね。今年どうするかという時に、本来だったら英国で開催するはずだったのですが、初めて新興国のインドで開催されました。今年3月に開催されて、G8の所謂アカデミーの会合は、首脳の会合、所謂サミットの少し前に行って、サミットの首脳に各国が同時に、同じ日に成果をお渡しすると、共同声明をお渡しするという、そういうやり方をとっています。

今年については、3月に会合をやって、その後、取りまとめをして、5月の終わりに安倍総理に山本大臣も立ち会って頂いたもとの手渡しをさせて頂きました。その大きなテーマは、持続可能な開発ということと、薬剤耐性菌問題という2つのテーマです。

本来であれば、それで毎年の行事は終わるのですが、今年はそれでイギリスが飛んだということで、イギリスのロイヤルソサエティーがどう考えたのがちょっと分かりませんが、沖縄で、日本で開催した洞爺湖サミットと沖縄の大臣会合ですね、その大臣会合で科学技術大臣が集まって以来、そういう催しが無いということに注目して、ロイヤルソサエティーの呼びかけで大臣級と、それからアカデミー会長級の合同会議というのを今年行ったということで、その内容が今、報告があったものです。

最後のまとめでイギリスは、来年以降もこういうのが続くといいというふうに言っていました、それは、ちょっとどうなるかは分からないということでもあります。

- 原山議員 私も一言つけ加えさせて頂きます。イギリスはかなり戦略的にこういう場を使っているというのが印象で、ここはG8という場なのですけれども、国内の政策に対して後押しをするという形でやっています。今、大西議員が仰った薬剤耐性菌の話というのも、プロジェクトとしてイギリスにもプッシュしていくのと、先程の研究成果へのアクセスということで、イギリスとしてはゴールドモデルというものをプッシュするのですけれども、その方向性というものを示して、イギリスで実践したものをG8とその体験談を共有するという話をしておりました。

ロイヤルソサエティーの役割というのはかなり大きなドライバーとなっていたことは確か、この今、申し上げた4つのテーマに関しては、バックグラウンドとなるペーパーというのもロイヤルソサエティーで全て出しているというのですね。それをベースにして、この議論がなっていたということです。その際、やはり科学的根拠並びに分析というものを提示しているというのが、一つ象徴的でした。

この会議と平行して、バイラテラルで色々な方とお話する機会を持ちまして、その1つがNESTAという機関なのですが、これは法人組織化公益団体というステータスを持っていて、政府からお金を貰っている公共機関なのですが、非政府公共機関とされています。その面白いというのは、これを政府として持っているというのは何かというと、彼らが言っているのは、イノベーション・イン・イノベーションと言っています。イノベーションを打ち出す為の新たな手法みたいなのをここで開発していくという話であります。と同時に、彼らは、実質的にイノベーションの指標ということも開発していて、両面から攻めているというのが印象的でした。

科学技術顧問に関しましては、前代の方と現役の方とお話する機会がありまして、イギリスの制度というものを説明して頂いて、イギリスの場合には科学技術担当大臣がいらした上でもって首相に対する顧問がいると。その顧問とい

うのをB I Sという1つの省の中の1つの一員となっているということで、どのようにアサインされるかという攻防をとっているということなのですね。攻防をとりながら、それからもう一つは、各省ごとにやはり科学技術アドバイザーがいて、彼らを週に1回集めて議論することによって、コーディネーションの情報の共有が図られているということでございました。

それから、福島、対応は非常に的確にイギリスはして下さったということで、緊急時に対する対応なのですが、やはり科学技術顧問の組織として、複数のシナリオを書いて、何かあった時にはどのような対応をするかということ常時頭の中に入れた上で、抜き打ちの訓練もやっているそうなのですね。その中で、色々な分野の各テーマ毎にエキスパートが誰だということを想定しておいて、彼らはいざという時にはモビライズすることが出来るというふうな形をしています。

それらの諸々のことなのですが、メモしたものをまた御報告させて頂ければと思います。

御質問、コメントのある方いらっしゃいましたら。

○山本大臣 原山議員と大西議員に、この大事な国際会議に参加して頂いて、それぞれ大臣、或いはアカデミー会長級の皆様と渡りあって頂いて、本当に総合科学技術会議があつて良かったなど、担当大臣として思っています。本当であればこういう会議に私自身も行きたかったですけれども、残念でした。次回、ロシアである時は是非、大臣が続ければ行きたいと思っています。

3つ申し上げます。1つは、大西議員からは現地から戻られて電話を頂きましたし、原山議員からは最後まで参加して頂いた御報告も頂いたのですが、こういう科学技術外交は非常に大事だと思えました。特に原山議員からも大西議員からもあつたと思えますが、沖縄で第1回目をやったと。かなり会議で沖縄のことが言及されたという、最初に小淵総理の下で行われたということを最大限にアピールしていったらいいのかなと思います。

こういうサミットという場でも、イギリスが国益を考えて色々な仕掛けをしていると。こういうところを少し学ばなければいけないと思えました。

今回の会議で大きな課題になった科学研究のオープンデータの話ですが、これは私が担当しているIT戦略本部と非常に関係があつて、昨日、司令塔連携会議の第2回目をしましたが、このオープンデータということについても、特に科学研究のオープンデータという分野がある訳なので、IT戦略本部と総合科学技術会議の連携、話し合い、打合せを1回これで持ったらどうかという気がしています。ゴールドモデルの話も改めてお聞きしたいと思います。

それから、原山議員からお話のあつた科学技術顧問の話、私も御報告を伺って、詳しくお話を聞きたいと思っておりますが、科学技術顧問については、色々な所からこれを設置するべきだという意見と、なかなか建付けが難しいという慎重意見と両方あつて、今回、閣議決定した文書の中では将来の検討課題にはなっていますが、あちこちからこれについての話も出てきているので、総合科学技術会議でも科学技術顧問のあり方については議論していかなければいけないと、改めてそう思います。

原山議員のお話で、どういう形にせよ、科学技術顧問が総理に対して科学技術全般について色々アドバイスをする為には、あらゆる分野のネットワークというものが必要であつて、原山議員とも少し話しましたが、日本ではそういうネットワークがまだ出来ていないのではないかと。それぞれの科学技術顧問という形をとるにせよ何にせよ、色々な政策決定、重要な政策決定に科学技術の側面を織り込んでいく為には、何れにせよネットワークが必要だということと、改めてイギリスの例をお聞きして、総合科学技術会議との連携というものは、どんな仕組みを作るにしても欠かせないと思えました。このことについては本格的にここで改めて議論をさせて頂かなければいけないと思っておりますので、宜しくお願い致します。

○原山議員 議員の皆様、何かコメントがありましたら。無ければ、この議題は閉じさせて頂きます。それでは、本日の大臣・有識者会合はこれで終了させて頂きます。